

次のような3重構造の体制で生徒を支援するイメージを持っている

→原則は「**生徒のやりたいことの実現に向けて支援する**」

(少なくとも自治活動・進路指導とは共通の理念と思われる)

指導教員	<p>主な支援方法：生徒の個別具体的な対応窓口、生徒の集団づくり</p> <p>(個人的見解として、役割は「KP 担任」などと呼称する方が適切ではないか?)</p> <p>①目の前の生徒が成長するためにどうすれば良いかを考え続ける。</p> <p>①生徒とコミュニケーションをとり「生徒のやりたいこと」を理解し、実現へ支援する。</p> <p>→おそらく、進路指導や自治活動と同様の発想。しかし本当に「やりたいこと」を言うのは難しい</p> <p>②(異学年の)生徒同士が高め合える集団を作る。</p> <p>③生徒の研究に必要な事務作業を行う。</p> <p>④探究全般についての基礎的なリテラシーを基に、研究の見通しを議論する。</p> <p>⑤生徒のテーマについての知識を持ち、やりたいことをできることに近づける支援をする。</p>
学年研究係	<p>主な支援方法：学年の生徒を全人的によく知っている教員として、探究へのモチベーションを高める旗振り役</p> <ul style="list-style-type: none">・学年の生徒の探究へのモチベーションを高める。・生徒の「やりたいこと」探しの支援をする(特にテーマ設定の困難者に対して)。・個別の生徒の照会に対応する。・3456KP 全体のマネジメントに準幹部的な形で関わる。 <p>例) 3456KP 担当者会議の参加者を学年研究係に絞り実質的な議論を行うなど + 3456KP の事務作業の補助(講座編成や倫理審査、優秀者選出など)</p>
研究部専任	<p>主な支援方法：研究を行うしくみや環境を整える</p> <ul style="list-style-type: none">・授業実施上の事務作業(授業計画、全体講義や発表会の運営、評価入力など)・研究上の事務手続きの整理(倫理審査、外部への依頼など)・教員と生徒への探究のサポート体制(教員研修、探究用ラボ整備など)